

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2371200730		
法人名	有限会社 まると		
事業所名	グループホームまると道徳		
所在地	名古屋市南区観音町1丁目71-33		
自己評価作成日	令和3年9月20日	評価結果市町村受理日	令和3年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2371200730-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2371200730-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和3年10月8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者さんの思いや要望をくみ取り、寄り添うケアを通じて、自分のペースで安心して暮らせる場所となることを目指しています。介護職員は、一人一人の様子や状態を観察して、日々の変化に応じた柔軟なケアを、実践しています。利用者さんが出きる事を支援する自立支援を実践し、残された能力を大切に、利用者さんが受け身になるだけの介護にならない様な支援を目標に支援します。  
事業所は、清潔で快適な環境で生活して頂ける様に、施設の設備管理、衛生管理を特に重視しています。定期的な設備の修繕や保守、必要な備品の整備を行い、日頃は、清掃、衛生担当者をおいて、共同設備の衛生状態の保持、感染防止の為に清掃消毒を実施しています。利用者さん個々においても清潔な状態が保持されている事を重視しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

幹線道路から少し入った昔懐かしい街並みの中に、2階造り戸建てのグループホーム「まると道徳」がある。公園やスーパーマーケット、八百屋や花屋、民家が近くにあり、日々の散歩コースとなっている。「支え合う身近な家で普通に暮らす」というホームの理念とケアの理念「安心、安楽、安全」を基本に、暖かい家庭の雰囲気大切に、入居者が「今出来ること」、「わかること」を見極めながら個別のケアに配慮し、安全に今の生活が維持できるような支援に努めている。業務改善の一環である職員の役割分担業務が定着し、ケアの中に活かされるようになってきている。管理者はより一層、運営全体を見極めつつ、移り行く社会情勢や家族との関わり、理念に沿ったケアの在り方などを考え、職員の資質向上に向け力を注いでいる。コロナ禍で踏み止まっている、地域との深い縁や繋がりも状況を確認しながら踏み出して行く予定にしている。入居者も日々の役割を持った家庭人としての生活をもとに、穏やかでゆっくり、生き生きとした生活を送っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は、日々のケアは、理念に基づいた実践が行われていることを意識して、職員の指導や助言を行っている。職員は、理念を理解し日々のケアに活かしてその人らしい暮らしと照らしながら日々のケアを行っている。	「支え合う身近な家で普通に暮らす」というホームの理念は、玄関や事務室、居間など誰でも目につきやすいところに掲げている。会議や研修会などで振り返り、職員と共有しながら実践につなげている。管理者は日々のケアの中でケア理念を重視しながら出来る事、出来ない事を見極め、安心、安全なケアを目標に、日々の暮らしと個別の対応に留意し指導や実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所と利用者は、町内会に加入しており、町内の一員として、資源ごみの当番や公園清掃に参加し、祭りなどの行事にも参加するが、近年、利用者は、感染防止の為、町内会活動が自粛され機会が失われている。	入居者と事業所は町内会に加入し、町内の一員として行事に参加している。町内行事の祭りや運動会、公園清掃などに積極的に参加しているが、コロナ禍のため行事の中止や参加の自粛をしている。また、日常的に取り入れていた日々の散歩や買い物など状況を確認しながら地域との繋がりを再開していく心積もりをしている。大学から依頼のある地域福祉のアンケート等に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、地域の実状を知り、対応等のアドバイスや相談に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内の住民と顔見知りになり、利用者さんが気軽に行事に参加できるようになった。自立で散歩できる環境が出来ている。	入居者や家族、地域代表、町内会長OB、いきいき支援センター等の参加を得て2か月に1回開催しているが、コロナ禍により書面開催としている。今年度は、運営やサービスの状況、課題などに加え新型コロナウイルスの感染対応やワクチン接種などをわかり易く記載している。地域代表や委員からの意見は、電話で聴取し、コロナ禍の事業運営に活かしている。	運営推進会議を通して、家族や地域、行政との情報の交換やサービスの向上に繋がる機会であることを入居者家族に知っていただくために、まとまると道徳のおたよりなどに運営推進会議の内容を記載するなどして発信していくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の変更や状況に応じた申請について事前相談を行い意見を反映するようにしている。名古屋市介護ネットを定期的に確認し、指示や指導に従って業務に反映する様にしている。アンケートやその他の要請に応じている。	申請代行や運営、生活保護関係等で、窓口を訪れていたが、コロナ禍により郵送する書類も多くなった。現在は、電話やファクス、メールなどで情報交換をし、今まで以上に協力関係を密にしている。名古屋市介護ネットを定期的に確認し、指示や指導に沿って対応し業務に反映させている。アンケート等の要請にも協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化委員会を開催し、委員会の内容や状況を職員会議などで周知できるように報告している。職員は、身体拘束の研修を行っている。昨年より、委員会の開催にかえて、状況報告を行い委員会開催としている。	ケア理念の「安心、安楽、安全」を基本として個々の人格を尊重し、人としての尊厳を大切に身体拘束をしないケアや言葉の拘束、心の拘束の排除に取り組んでいる。3か月毎に開催される「身体拘束適正化委員会」は運営推進会議の委員を含めたメンバーで拘束に対する具体的な行為や問題点を協議し、会議内容は職員会議で周知し共有を図っている。職員は、身体拘束の対応等について研修を行い職員全員が理解できるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回虐待防止の研修を行っている。日頃から、職員の資質の向上、対人マナーなどの教習、個別に指導、注意等を行うなど、具体的な事例や日頃の注意点を周知できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、権利擁護の制度、後見人について、倫理研修やその他のカンファレンス等で、知識や理解を得る機会があり、利用者の入居の際には、後見人について説明し制度の利用をすすめている。現在1名が後見人、1名が補佐人による制度を利用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族、本人を含めて入居の相談段階から説明を行い、契約時には、重要事項説明書、個人情報の取り扱い等、確認承諾書を作成している。変更などが生じた場合は文書で通知したり直接説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム便りやケアプラン承認等の機会には、質問や意見を受け付ける体制を伝え、面会等の機会には、情報提供を行い意見や要望を聞ける機会としている。	入居者からは日々の暮らしの中から思いを聞き、記録して職員間で共有しケアに繋げている。家族からは面会時やケアプラン承認時、また必要に応じて電話で接遇やサービス内容、施設の環境などの意見や要望を聞きサービスの向上や業務改善に役立っている。コロナ禍により家族の面会は状況に応じて流動的な対応としているが、ホーム便りを発行して面会規制の説明や緩和状況を発信し家族に安心を届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、業務改善会議を実施し、意見や要望を聞く機会を設ける様にしている。また、毎日の申し送りに参加し、日々のケアの状況や業務の現状を知り、改善について、意見を求める様にしている	管理者は定期的な職員会議や業務改善会議、日常の業務や申し送りに参加して意見や要望を聞くようにしている。年1回の面談では職員の要望や意見、提案をじっくり聞き業務や職場環境の整備に役立っている。役割分担業務の定着により職員一人ひとりが向上心を持って業務に携わり、職員評価制度により処遇改善やケアのレベルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価制度を整備し、実践評価を行っている、介護職員処遇改善を導入、給与の増額や手当の新設などに取り組んでいる。業務の効率化や改善を行い、ゆとりのある職場づくりを行うようにしている。就業規則の見直しや変更を随時行い足ば環境の向上に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内での指導や介護技術のアドバイスやケアの実践について、取り組んでいる。外部の研修等の情報を提供し、受講希望者には休日や勤務の変更等、資格取得費用の補助を行い協力する制度を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流機会になる、名古屋市介護サービス連絡協議会に所属している。研修会などに参加し交流の機会が持てる様に提唱している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族との面接を通じて、要望や不安を聞き取る様にしている。生活歴や生活環境などの情報を聞き取り、ケアの参考にしている。規則や決まりを押し付けない様に本人の要望に添って柔軟に対応するようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の状況や不安を聞き取り、要望を受け入れる様にしている。家族の思いを傾聴し受け入れる様にしている。必要に応じて、制度の紹介や活用に必要な助言や情報提供を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期支援での対応には、柔軟に対応し、例外的な対応や個別のケース対応を行うようにしている。必要に応じて市町村との連絡や権利擁護センター、いきいき支援センター等々連絡調整を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人の意志や要望を聞き、介護者の思い込みや一方的な判断で押し付けない、出来る事は自立できる様に、出来る事を取り上げないような支援を心掛け、互いに共助する関係を構築できるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いや、利用者さんの思いを伝える立場として、より良い関係を構築するように努めている。家族が支援に参加できる、本人も参加を望んでいることを伝える様にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話の支援を行い、本人の思いをくみ取る支援をしている	アセスメントシートで生活歴や大切にしてきた人や場所を把握し、継続できるように努めている。友人が面会に訪れたり、公園や買い物で知人と遭遇し旧交を深めたり、家族と共に掛けるなど関係が途切れないよう支援している。コロナ禍に於いてできる事の制限はあるが、日常の家事や趣味の編み物、手紙や電話のやり取り、移動図書館で本を借りるなど、今まで培った経験と得意分野を楽しみながら日常に活かす支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同で行うアクティビティと個別に会話や気の合う同士がくつろげる支援など、個人の個性に合わせた対応を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、家族や本人が必要とする事には、対応するようにしている。個々のケースにより、個人情報の保護に係る場合があるので慎重に関わる様にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人を中心に、限られた資源や条件のなかでも実現可能な方法を模索して支援するようにしている。	日常の入居者との、さりげない会話や表情などをケアの中から感じ取ったり、居室や夜間など、のんびりしている時間に思いや希望を丁寧に聞くようにしている。感じ取ったことは申し送りノートや介護記録に記載して会議で話し合い職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない方には、気長に待ちながら、うなづきや表情の変化がみられるまで丁寧に対応するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の経過の中で、本人や家族などから、聞き取れる様に機会があればその都度、情報収集するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子や特別な状況など、申し送りや職員からの聞き取り等を行い状況の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医療との連携、家族の要望や本人の要望を交えて計画に反映するようにしている。利用者個別に担当職員を配置し、担当職員は、1ヶ月間の実施ケアを評価し、管理者、計画作成担当者と情報を共有している。	担当職員が、入居者の日常の様子や身体状況の変化の記録を把握しながら毎月モニタリングを行っている。毎月のケア会議で評価の確認と調整を行い会議で話し合った内容や情報を共有しながら実践している。6か月ごとに介護計画の見直しと課題について協議し、医師や看護師などの意見と、入居者や家族の意向等踏まえながら現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した場合は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子や、特記、気づきなど日誌に記録すると共に申し送りで報告し、都度、対応をアドバイスしたり、ケアの変更に反映したり、している。ケア評価表の作成に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出の希望や利用者個人の生活の要望に個別に対応できるようにしている。必要に応じて個別同行支援や代行など対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容院、クリーニング、買い物など地域の店舗を利用できる支援を行っている。巡回図書館を利用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連絡や情報の共有に努めている、ホームドクターの定期往診と必要に応じて専門医の紹介、検査の予約などの連携を受けられる体制が整っている。本人が希望する医療機関の利用も可能である。	入居時に今までのかかりつけ医か協力医かの希望を聞いているが、現在は全員が協力医に変更している。協力医は月2回の往診と必要に応じて検査の予約、専門医の紹介など関係医療機関と連携している。歯科や皮膚科、眼科は必要に応じて往診が受けられる。毎週、訪問看護師による健康チェックや日々の情報を伝え適切な受診が受けられるよう支援している。結果は記録に残し職員間で周知しケアに活かし家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護による看護職との情報交換を行い、日頃のケアのアドバイスなども相談できる関係が出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護サマリーの提供や外来受診に同行するなど、本人の状態や状況を代弁し伝える様になっている、医療機関の要請に対しても対応できるようにしている。早期退院できるように協力している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個別ケースに応じて初期の段階から家族に状態や今後、予想される状態等を話し合い、利用者本人、家族の要望を都度、確認しながら、具体的な対応について、医療関係者とも要望を確認しながら行えるように計画や準備を行うようにしている。	入居時に、重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにして家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合はその都度、家族の意向を確認し計画の見直しをしている。重度化した場合には早い段階から家族と話し合い、事業所のできることを十分に説明しながら意向の再確認をし、医師や看護師、関係医療機関などと話し合いながら、最善の援助ができるように努め、可能な限り希望に添った支援をしている。看取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対象利用者を想定し、急変や事故発生リスクに対して、随時、指示、研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策の研修や訓練を実施し、運営推進会議の報告事項や地域代表者への報告を通じ、協力の依頼を行っている。避難誘導訓練は年2回以上実施し、火災、風水害、激甚災害の研修を実施している	年2回以上火災や地震、風水害の他に様々な災害を想定した避難訓練の実施と研修を行っている。内1回は消防署の指導を受け、消火活動や避難場所、避難経路の確認を行っている。問題点や課題については職員で話し合い改善に努めている。地域には運営推進会議を通じて避難誘導や見守りなどの協力依頼をしたり、一時的な緊急避難場所としてホームの利用ができる事を伝えている。水や食料の備蓄は3日分、非常持ち出し袋や防災頭巾、備品も準備され、定期的に点検を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務の都合やルールを優先しない、利用者の状態や日々の様子に合わせて柔軟に対応できるようにしている。その人の心情や人格に応じた話しかけや対応に心掛けている。	一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルや性格を理解し、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。職員それぞれが、認知症を理解し、入居者の目線に合わせた支援や声のトーンなどを統一できるようミーティングなどで話し合い、確認しながら支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個人の要望をくみ取れるように関り、職員の一方的な思い込みによる対応を行わない様に支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の申し送りで、各利用者の今日の様子や予定などの情報を共有できるようにしている。日々の状態に応じてケアや業務を流動的に対応できるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の趣味や好みを優先して、その人らしいあるべき様子にできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や、調理、配膳、片付など職員と共に行うケアを実践している。個人の能力や特性をいかして不安がなくできる事を勧める様にしている。	季節の食材や栄養バランス、彩りに配慮した献立は4週間ごとに更新し、毎食手作りしている。入居者の保有能力や特性を活かし、食事の準備や調理、配膳、片付けなどを職員と共に行っている。誕生会のちらし寿司、ケーキやぜんざい、お正月や節句などの行事食も楽しみとなっている。また、個々の食欲や嚥下状態に合わせてきざみ、とろみ、ミキサーなど随時対応し工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事量、水分量を確認している、食欲や嚥下の状態などに応じて介助の方法など、随時対応している。夜間の水分摂取と起床時の水分摂取が行えるようにケアに取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性や、個人の能力に応じて対応している。義歯の具合や衛生管理を行い、口臭や嚥下の状態などから判断し方法や必要に応じて歯科受診、口腔ケア指導を受けるなどの対応を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況について、個別に把握し、介助の方法や自立にできる支援を行うようにしている。頻尿対策など改善に向けたケアを実践している	入居者のプライバシーを守り、個々の状態に合わせてトイレで排泄の継続支援をしている。排泄記録を参考に一人ひとりに寄り添い、さりげない声掛けやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導を行っている。施設内のトイレ以外に各居室にポータブルを備え必要に応じて利用している。便秘予防には下剤等をなるべく使用せず、運動や体操、食べ物等を工夫した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や体操を行う、下剤を減らす水分摂取量の把握の対応などを行い、排便状態の改善を行うケアをしている。ヨーグルト、フルーツなどを食事に取り入れるなどの工夫を行っている。下剤を服用する利用者が減り、服用量も減少できている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の自立度や性格、要望をくみ取り、ゆっくりと入浴できるようにしている。入浴に関する不穏が発生しない対応をしている。1日に入浴時間を分散して対応するようにし、個々がゆっくり入浴介助が受けられる	入浴は一人ひとりの体調を考慮しながら週2回～3回としているが、希望があれば毎日でも入浴できる環境を整えている。足し湯をしながら湯の清潔に留意しゆっくり入浴できるよう支援をしている。浴室の清潔を保持し冬季の暖房にも配慮している。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の状態に応じて安心できる対応を工夫している、居室の温度や照明などの対応も個別に行うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援には、常に2名で行うようにし、内服薬の内容や変更、効能などの資料と照らし、実施している。服薬による効果や結果も把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員の一方面的な思いやお仕着せにならない様に、その人のペースや様子に合わせて、役割や手伝いを勧めて、個人のマイペースを支援するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所や慣れた場所へ自立でできる支援や地域の人との関わりがある環境を整えている。顔見知りの人と挨拶を交わしたりできている。必要に応じて家族に要請するなどの対応を行っている。	昔ながらの街並みや公園、神社など四季の移ろいを感じながら散歩に出掛けられる環境にある。入居者の体調を考慮しながら散歩や買い物に出掛けていたが、コロナ禍により今は自粛している。平常時は、散歩の折に知人や行きかう方と挨拶を交わしたり、自立度の高い方は携帯のGPS機能を利用して散歩を楽しんでいる。家族の協力を得て、普段は行けない様な所に出かける方もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	随時、その人の様子に合わせて、お金を所持する、支払いを任せるなどの支援をしている。金銭トラブルが起こらない様に事前に家族に承諾や了解を得る様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その都度、要請に対応している。利用者の状況や家族の様子に考慮し、適切な対応を行うように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、衛生的に保ち、利用者にとって不快に感じる音、行動などに配慮するようにしている。花や装飾品など、季節に応じて変更するなどの対応をしている。	家庭的な玄関には招き猫の飾り物やその時々に応じた装飾品が品よく置かれている。トイレ、洗面所、浴室等の改修や手すりの増設など順次、設備の改修に心がけ環境の整備をして、今まで以上に安心や安全に配慮した清潔感のある生活空間を保つようにしている。食堂と居間はワンフロアで、壁面のホワイトボードには今日の目標や食事メニューを書いて話題作りの一助としたり、余暇の時間には体操やテレビを鑑賞したりして入居者一人ひとりに合わせた居心地のよい環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所が有って、画一的にならない様に、本人の様子や希望に合った対応を行うようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ個性に合った、居室になっている。好みの色や状態に合わせた工夫などの対応をしている。認知状態により、分かりやすい工夫や安心できる状態にするようにしている。不穏要因にならない工夫も行う。	居室とベットは入居者の状態に合わせた環境を整えている。また、使い慣れたテレビや仏壇などを持ち込み、本人や家族が希望する小物や写真、絵画などを飾って自分らしく落ち着いて過ごせるようにしている。また、自立度や個別介護に合わせた部屋の配置や物の設置がされ、安全で安心して日常生活が送れるよう気配りをしている。整理整頓された清潔感のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすい表示や混乱しない様にその都度工夫して対応している。個別の理解度の変化も気づけるようにしている。		